時事新報

公報

東京圖書館

郵遞為認可

明治十八年一月廿八日 水曜日

第八百七十八號

日曜日休刊

○陸軍省達甲第五號

廳僚今般辭職候ニ付本日ヨリ省務取扱候條此旨相達候事

明治十八年一月二十七日　陸軍卿伯爵大山巌

○海軍省達丙第四號

海軍軍人ニシテ他官廳所屬船頭ハ會社所有船又ハ雇船等ニ乘組ヲ命シタル者ハ本月一日ヨリ軍艦乘員ト同ク加俸ヲ給シ且准士官以上ハ上等下士以下ハ下等トシ現費ヲ以テ食料ヲ給ス此旨相達候事

明治十八年一月二十七日　海軍卿伯爵川村純義

○農商務省達第二號

府縣

時治十七年當省第四號及第三十八號達茶業組合準則第十二條ニ左ノ但書追加候條此旨相達候事

明治十八年一月二十七日　内務卿伯爵山縣有朋

農商務卿伯爵西鄕從道

第十二條本文等之

但特宜ニヨリ役員外ノ者ト雖モ之ヲ選擧スルヲ得

○東京府布達甲第一號

本年丙第六號ヲ以テ學校生徒取締之儀相達候ニ付テハ今後者ヲ右樣ノ擧動有之ニ於テハ其情狀ニ因リ生徒ハ公私立學校ヘ入學ヲ禁シ學校長教員ハ十六年甲第四十二號布達ニ據リ處分シ私立學校ハ停止ス

右布達候事

明治十八年一月二十七日　東京府知事芳川顯正

敍任

○明治十八年一月九日

兼任外務書記官　外務權大書記官　近藤眞鋤

正六位勳五等

○明治十八年一月廿二日

大政官大書記官兼元老院權大書記官從五位　金子堅太郎

兼任參事院議官補兼元老院權大書記官如故

○明治十八年一月廿六日

任埼玉縣大書記官　埼玉縣少書記官正七位　笹田駿介

任東京府本所區長　從六位　竹内節

時事報報

主戰非戰ノ別

朝鮮事變ノ起リシ以來世ニ主戰論ト非戰論ト兩樣ノ唱ヘヲ生ジテ雖レハ主戰論者ナリ彼レハ非戰論者ナリナド云フハ往々我輩ノ聞キ及ブ所ナレハ全体譯ケノ分ラス話ニシテ主戰ト唯漫ニ戰ヒサヘスレハ夫レニテ滿足ナリト云フニモ非ズ外國ニ對シテ我レニ曲ヲ被ルトキハ先ヅ一應ハ談判ヲ以テ被曲ノ償ヒヲ求メ一應モ二應モ拒合ヒタル上ニテ相手ノ國ノ政府ガ之ヲ聽カザル處ニテ左ラバ此上ハ止ムヲ得ズ曲直ヲ兵力ニ訴ヘント云フ是レ主戰論ナリ又非戰論ト雖ハ如何ナル事情アルモ戰ハ禁物ナリ敵國人ガ如何ナル無法妄慢ヲ過ウスルモ我ガ面ニ唾スルモ兎角世ノ中ハ圓キヲ貴ブトテ理ヲ非ニ枉ゲテ人ノ下風ニ立ツヲ悅ブノ義ニハ非ズ何レニモ堪忍ニ堪忍ハスレドモ俗ニ所謂堪忍袋ノ緒ノ切ル、時ハアル可シ左レバ主戰必ズシモ戰フバカリニ非ズ非戰必ズシモ戰ハザルニ限ラズ唯其相違ハ主戰論ハ百事勇ク

クシテ成ル可キ丈ケハ他國人ノ妄慢横着ヲ許サズ事ト品トニ由リテハ財產ヲ空ウシ一命ヲ棄テモ國ノ面目ニハ易ヘ難シト云ヒ非戰論ハ都テ堪忍ヲ專ラトシテ成ル可キ丈ケハ無事ヲ祈リ假令ヒ心ノ中ニハ不平アルモ大目ニ見過ゴシテ國ノ安寧コソ大切ナレト云フノ趣意ニシテ之ヲ要スルニ兩樣共ニ其結局ハ同樣ナレドモ其結局ニ至ルマデノ道中ニ成ル可キ丈ケト云フ此一語ノ相違アルモノト知ル可シ

我時事新報ノ說ハ主戰カ非戰カ是レハ看客ノ諸君ノ高評ニ任ズ記者ハ素ヨリ公平無私ヲ以テ自カラ居リ眼中朝ナク又野ナク唯日本國民ノ資格ヲ以テ日本國ノ利害榮辱ヲ目的ニ定メ之ニ說ヲ同ウスル者ハ友トシテ相助ケ之ニ異論ヲ容ル、者ハ論敵トシテ排スルノミ依テ今コヽニ我輩ノ身ヲ非戰論者ノ地位ニ置キ今回ノ事變始末ニ付キ成ル可キ丈ケ堪忍シテ諸君ノ之ヲ許スヤ否ヤヲ聞カント欲スルモノナリ我輩先ヅ以テ戰爭ハ好マザル所ナリ井上大使ガ京城ノ談判ニテ日韓ノ交際ハ圓ク治リ誠ニ目出度キ次第トシテ次ニ支那政府ヘ何レカノ道ヲ以テ談判ヲ開クニ當リ其談判ノ證據ヲ求ルニ十二月四日ノ變ニ我竹添公使ハ朝鮮國王ノ依賴ニ應ジ兵ヲ率ヒテ大闕ニ赴キタリト云ヒ同月六日支那ノ將官袁世凱吳兆有ハ朝鮮政府ノ請求ニ由リテ大闕ニ向ヒタリト云フ扨ハ双方共ニ直ナルガ如シ堪忍ス可キヤ否ヤ、支那兵大闕ニ向テ一ツリ日支兵ノ間ニ砲聲始マリタリ日兵ハ云ク支那兵先ヅ砲發シタリト支兵ハ云ク日兵先ヅ發砲シタリト是亦双方共ニ申樣アリテ水掛論ナリ堪忍ス可キヤ否ヤ、支那將官ハ六日ノ攻擊ニ際シテ在京城ノ華商ニ命令ヲ下ダシ荷モ日本人トアレバ男女老幼ノ別ナク之ヲ屠殺セヨト觸レ流シタリト云フト雖ドモ是レモ嗤風聞ノミニシテ當日將官ノ示令書ヲ日本人ニ見タル者ヤ、ナケレバ證スルニ足ルモノナシ今日ニ於テ支那人ハ斷シテ左樣ナ事ハ御座ラスト云フカラニハ談判上無證據ニシテ今更ラ我レ方ナキガ如シ堪忍ス可キヤ否ヤ、在京城ノ日本人ガ屠殺セラレタルハ事實ナレドモ此屠殺者ガ誰以テ支那人ナルヤ否ヤ甚タ分明ナラズ生殘リタル日本人ニテ當日支那兵ニ砲擊セラレテ中ラザリシ者ハアレドモ死シタル者ハ果シテ支那人ノ手ニ死シタルヤ否ヤ死人ニ口ナケレバ之ヲ證スルニ由ナキガ如シ堪忍ス可キヤ否ヤ、日本ノ婦人ガ支那ノ兵營ニ引カレテ辱カシメラレタリト云フト雖ドモ是レハ唯婦人ノ一方ニテ極々私ニ申ス所ニシテ今日支那ノ兵營中ヲ吟味スルニ婦人ヲ辱カシメタル者ナドハ一人モナシト云フ是亦當日兵營ニテ兵士共ガ婦人ヲ辱シムル處ニ日本人ノ立合ナカリシガ故ニ調リ婦人ノ百ノミヲ以テハ證據トスルニ足ラザルカ如シ、堪忍ス可キヤ否ヤ、吉松某ガ南陽ニテ支那ノ海軍兵士ニ圍マレ物ヲ奪ハレシ倘後ノ兵營ニ引カレテ虐待セラレタリト云フモ是レハ吉松ノ申シ口ニシテ今日ニシテ吟味スレバ支那ノ海軍ニハ斯ル乱暴兵ヲ一人モナシ何レ何カノ間違ヒナラン又同人ガ兵營ニ送ラレテ苦痛シタリト云フモ無根ノ事ニシテ支那營中ニテハ最ト丁寧ニ取扱ヒタリ故ニ吉松ガ物ヲ奪ハレタリトハ途中偶然ニ遺失シタルヿナラン兵營中ノ處待トハ同人ガ腹痛ニテモ致シテ自カラ苦シミタルヿナラン或ハ身ニ毆打ノ痕ナドアラバ夫レハ同人ガ自カラ轉ビテ怪我ヲシタルヿナラント云ヘバ談判ノ證據ニハ直ナ難キガ如シ、堪忍ス可キヤ否ヤ

右ノ如ク我輩ハ仮ニ我身ヲ所謂非戰論者ノ地位ニ置キ事實ノ條々ヲ揭ケテ斯ク〳〵ノ始末ニ立至リ堪忍ス可キヤ否ヤト問ヒ設ケタレバ之ニ答ヘテ應ト云フモ否ト云フモ看客諸君ノ心ニ在テ存スルモノナリ抑モ一國政府ノ下ニ在ル者ハ法律ヲ以テ各自ノ權利榮譽ヲ保護セラル、ガ故ニ國民相互ニ詞訟ノ事アレバ法官ハ原被双方ヲ呼出シテ曲直ヲ法律ニ質ス可シト雖ドモ國ト國トノ交際ニ於テ其曲直ヲ斷スルニ法律ナシ又法官ナシ唯コレヲ全世界萬目ノ視ル所、萬指ノ指ス所ニ訴ヘテ決ヲ取ルノ外更ニ方便アル可ラズ左レバ京城變亂ノ事實、世界中ノ視指スル所ニテ其曲其直果シテ日支孰レノ方ニ在ル可キヤ直支那ニ在テ漫ニ之ニ敵セントスルハ我國人ノ無謀ニシテ是レソ所謂主戰論ニ醉狂スル者ナレドモ我日本國ガ果シテ曲ヲ被リタル者ニシテ我レニ伸バス可キノ直ヲ抱キナガラ我堪忍ノ程度彼ノ成ル可キ丈ケノ境ヲ踰ヘテ却テ退縮ノ點ニ陷ルトキハ啻ニ一時損害ノ償ヲ得ザルノミナラズ世界萬國ニ對シテ今後文明ノ競爭ニ失フ所ハ實ニ想像外ニ大ナルモノアル可シ此一段ニ至テハ我輩ハ主戰論者ト云ハルヽモ敢テ辭スル所ニ非ザルナリ

雜報

○歸朝の祝宴　大山陸軍卿は來る三十一日午後より大臣、參議、各國公使其他陸海軍の將校一同を鹿鳴館に招請して歸朝の賀宴を開く都合なりと

○辭表の聽　參議兼農商務卿西鄕伯は國三日前辭表を差出しなる抔聽するものあれど如何にや

○參內場見　今般大山陸軍卿（隨行して歐洲より歸朝せし三浦陸軍中將、野津陸軍少將、及ひ歩兵大佐川上採六、仝桂太郎、會計監督小池正文、軍醫監稲本綱常、砲兵中佐村井長寛、歩兵少佐蓑水直、仝小阪千尋、工兵少佐矢吹秀一、歩兵中尉野島芳藏、會計二等軍吏遠藤慎司、仝三等軍吏俣賀敬正等の諸氏は昨廿七日午前十時赤阪仮皇居へ參內の上場見を仰付られ候

○佛將の處置　去月二十八日倫敦發の通報に風說よれば佛國首相フェリー氏は當時上海に在る支那駐箚佛國公使パテノートル氏を呼び返し且つ天津の佛國領事へ上海へ戻るべき言を傳へたるよしとあり此報の眞偽は判ゝされども若し果して眞なれバ佛國は拿支那政府に向て開戰を布告する積りなるか猶ほ委しき事は後報をまつ

○獨逸相佛相會合せんとす　去月二十八日伯林發の通報によれば同地の某新聞の報に相ビスマーク公は近々佛國巴里に赴くあるべし

府い公文をろの新聞ヒ雖ドモ密なり且つ親密なり且つ用各厚ければ何も

んとする如き外面

り若し獨佛兩國を

るれ巴ひを得ざる

機内々相見る事な

正したるよし併し

公と佛將フェリー氏

ひさりとあるを見

兎に角に兩相は會

○英相七十五回の誕

宰相グラッドストン

同氏がハローデンは

又當日は英國內の名

エルスは宮よりも

改進黨の組合仲間等

末長く同氏を信任感

は區別なく曾其社說

て祝意を表したり

○肥田富內省御用掛

日出發相州箱根宿へ

○赴任　新任の勝間

出發して赴任の筈な

○官廳彙報　文部大

範學校教員免許學力

一、仝寺尾壽、東京師

文部省御用掛鈴木唯

を蒙れも一昨廿六日

鄕氏い本月九日朝鮮

議官鶴金子堅太郎氏

五十圓下賜る旨を仰

三重縣令內海忠勝氏

定基氏い自今月俸二

氏は月俸八十圓を蒙

○內務權大書記官大

て戶籍局長兼務仰付

恒氏い大藏省主稅局

月俸七十圓）主稅局

咲野付標津目錄國幾

任に進められ月俸八

れたり

○佛國公使館は夜會　五時より伏見、北白川夫人令閨等を招請して

○昇任の噂　參謀本部

將ゑ昇任するとの噂

○藤田茂吉氏　報知新

費後の佐伯ゑ歸省し

經て歸京したる由

○學生遊歩會　東京大

一日墨田川の堤上ゑ